

会 報



2025

1

No.417

Lite 版

特集

会長あいさつ

三重県臨床検査技師会・新人研修会レポート

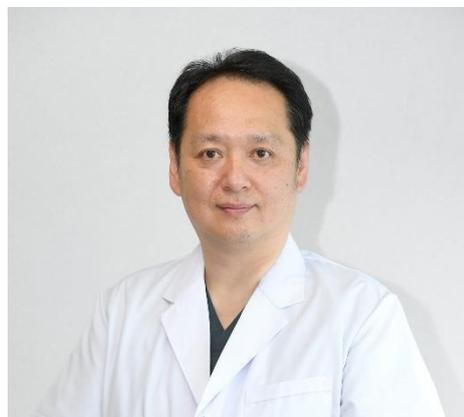


一般社団法人 三重県臨床検査技師会

会長挨拶

2025年の年頭にあたり、新年のご挨拶を申し上げます。

新年あけましておめでとうございます。昨年は大変お世話になりました。本年も変わらぬご支援とご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。令和6年5月末から会長を任せて頂き、新体制となった理事の皆様



と一緒に試行錯誤しながら、令和7年を無事に迎えることができました。今年には11月に日臨技中部圏支部医学検査学会を控え、三臨技の会員の皆さまおよび賛助会員の皆さまのお力添えが必要不可欠となります。あわせて、重要課題であるタスクシフト・シェア、多職種連携、精度管理・標準化事業、公益事業などについて、これまでの取り組みに対するの評価と今後の展望をしっかりと見定める年となります。今年も日臨技と三臨技の連携を深め、だれもが参画しやすい技師会活動を目指し邁進してまいります。

最後になりますが、今年も皆さまと共に、健康で充実した1年を過ごせることを祈念して、年頭の挨拶とさせていただきます。皆さまとの「つながり」を強め、臨床検査技師の未来に「つなげる」年にしていきたいと思っております。

2025年1月
会長 宇城研悟

三重県臨床検査技師会・新人研修会

新人研修会開催報告

12月1日、鈴鹿医療科学大学にて三重県臨床検査技師会主催の新人研修会「魅力ある臨床検査技師とは？—未来の臨床検査技師像を考える。—」が開催されました。講演は、三重県臨床検査技師会の宇城研悟会長、別所裕二副会長、広瀬逸子副会長の三名により行われ、臨床検査技師としての技術や役割、未来への展望が具体的かつ熱意を込めて語られました。

寒さの影響で予定されていたBBQは中止となり、室内での交流会に変更されましたが、参加者同士や講師陣との意見交換を通じて、多くの学びや刺激を得られる場となりました。「信頼される技師を目指すためのヒントを得られた」といった声が多く聞かれ、本研修会は新人技師たちの成長を後押しする有意義な機会となりました。



講演①：「日臨技が求める臨床検査技師像」

新人研修会の講演①では、宇城研悟会長が「日臨技が求める臨床検査技師像」について講演されました。宇城会長は、チーム医療における臨床検査技師の重要な役割や、現場でのノンテクニカルスキルの必要性について具体例を交えながら解説されました。

特に印象的だったのは、「真剣に取り組めばアイデアがでる、中途半端に取り組めば愚痴がでる」という言葉です。この一言には、技術だけでなく、熱意を持って仕事に向き合う姿勢の重要性が込められており、参加者一同が深く共感していました。また、宇城先生はご自身の経験を通じて、「技師会で多くの人と出会い、学べたことが今の自分の財産になっている」と語り、人とのつながりがキャリアや成長においてどれほど重要であるかを強調されました。

宇城会長の講演は、新人技師にとって「信頼される技師」になるための具体的な指針とモチベーションを与えるものでした。



講演②：「医師働き方改革とタスクシフト/シェア」

新人研修会の講演②では、別所裕二副会長が「医師働き方改革とタスクシフト/シェア」について講演されました。趣味のクラリネット演奏にも触れつつ、柔らかな雰囲気の中で医療現場における課題と臨床検査技師の役割について丁寧に解説されました。

別所副会長は、医師の業務負担軽減に向けたタスクシフト・シェアの重要性を強調し、その実現には各自が主体的に考え、行動し、責任を持って取り組む必要があると語られました。また、「はにわの踊る人々」という例えを用い、「表面的な情報だけでなく、自分自身で真実を確認する姿勢が大切だ」というメッセージが印象的でした。

講演を通じて、参加者は働き方改革が臨床検査技師にもたらす新たな役割を認識し、業務改善に向けた具体的なヒントを得る機会となりました。



講演③：「臨床検査技師が果たすべき役割と責任」

新人研修会の講演③では、広瀬逸子副会長が「臨床検査技師が果たすべき役割と責任」について講演されました。広瀬副会長は、「責任とは何か」という問いから話を始め、臨床検査技師としての精度管理と精度保証の重要性について詳しく解説されました。

さらに、検査の信頼性を高めるために必要な認定資格についても触れ、資格取得が自己のスキルアップだけでなく、医療現場全体の質を向上させることにつながると語られました。広瀬先生の講演は、参加者に自身の業務に対する責任感を再認識させるとともに、さらなる成長への意欲を高める内容でした。



新人臨床検査技師のお悩み解決セッション

研修会では、新人臨床検査技師たちから寄せられた現場での悩みに対する解決セッションが行われました。「当直に対する不安を取り除くにはどうしたらよいか」「学会発表をしたいが、どのように始めればよいか」「自分がやりたい業務のみを続けてもよいのか」など、多岐にわたる質問が挙がりました。

これに対し、理事の先生たちは自身の経験や苦勞を踏まえた具体的なアドバイスを丁寧に送り、「みんな最初は不安を抱えていたこと」「困ったら遠慮せず先輩に相談することが大切」「視野を広げて業務に取り組むことで新たな可能性が見える」などの励ましも交えながら対応していました。また、理事の先生方が一つひとつの質問に親身に答え、新人技師たちが抱える不安や疑問に向き合っている姿が非常に印象的でした。

このセッションは、新人技師たちが現場で直面する課題を共有し、仲間や先輩から支えられる安心感を得られる貴重な機会となりました。



新人研修会に参加して

松阪市民病院 中央検査室 山中美波

12月1日に開催された新人研修会に参加させていただきました。将来の臨床検査技師はどのように医療に貢献していくべきかについて学ぶことができ、そして先輩方の私たち後輩に対する考えや想いを知ることができました。また認定資格の取得や学会発表を行うなどスキルアップを続けることで、他の職種の治療スタッフに信頼される検査技師となり、医療に貢献していきたいと考えました。この新人研修会を通して日々の検査業務の中では学べないようなことを沢山学ぶことができました。また、久しぶりに同期の友人の顔を見ることができ、そしてみんな同じような悩みを持っていることも知ることができたので少し安心しました。このような機会を作っていただきありがとうございました。



編集後記



多肉植物が趣味になった理由

最近、私の趣味のひとつになったのが多肉植物の育成で、特にアガベとビカクシダに心惹かれています。どちらも独特な美しさを持っており、育てる楽しさと癒しを与えてくれる存在です。

アガベの魅力

アガベは、力強く存在感のある植物です。太く肉厚な葉が放射状に広がり、鋭い葉先が印象的で、まるで自然の彫刻のようです。アガベには色や形のバリエーションが豊富で、緑色から青みがかったもの、赤みを帯びたものなど、どれも個性的で美しいです。乾燥に強く、少ない水やりで育つため、手間がかからず、忙しい日常の中でも気軽に育てられる点が魅力です。成長がゆっくりなので、その分じっくり観察し、愛着が湧いてきます。

ビカクシダの魅力

ビカクシダは、シダ植物の一種で、ユニークな形をした葉が特徴です。特に「フリンジ状」の葉が垂れ下がる様子は、シンプルながら非常に美しく、どこに置いても視覚的に楽しませてくれます。ビカクシダは鉢植えだけでなく、壁掛けや木の枝に取り付けて育てる「エアプランツ」としても人気です。湿度を好むものの、手間は少なく育てやすいので、初心者にもオススメです。

癒しと成長の楽しさ

アガベやビカクシダの育成で特に楽しいのは、その成長の過程を見守ることです。アガベはその成長がゆっくりなので、少しずつ変わっていく様子にじっくり向き合うことができ、愛着が深まります。ビカクシダは、新しい葉が出るたびにその美しさに驚き、成長を感じることができるので、育てるのがますます楽しくなります。

編集広報部長 柿本 将秀